

東日本支部栃木分科会との意見交換会

日時 ⇒ 2014年8月30日(土) 12:10~16:55 (途中、昼食休憩あり)
会場 ⇒ チサンホテル宇都宮 会議室
参加者 ⇒ NACS東日本支部栃木分科会 : 7名
石油連盟 : 1名 NACS環境委員会 : 3名

会場となった宇都宮市周辺は、自家用車が暮らしの足として重要な役割を担っており、また灯油の屋外ホームタンクが設置されている家も少なくないとのことであった。

石油の一生に関しては「石油の代替品として究極のものはあるのか」という質問が出され、環境委員長よりアメリカなどではプラスチックが天然ガスから作られていること、燃料としては石炭が代替になるのではないかと説明があった。石連からは、炭素と水素からなる石油は熱々製品原料に深くかかわっていること、最近では水素やバイオ燃料も代替として期待されるが、水素は作るのにエネルギーがかなり必要であり、取り扱いも難しいと説明された。

運搬に関しては、石油は常温常圧で液体であり、実は運びやすいとのことであった。備蓄は、現在、国家備蓄と合わせて190口分あり、3.11以降は国も製品備蓄を始めている。ただ現在輸入の8割を占める中東からの分け、政治的に何かあったら入って来なくなる可詣削について説明があった。

地震や津波を想定しての対策や最近の油流出事故対策も説明された。

灯油は重いため運ぶのが大変との指摘や、火がついているストーブに灯油を注いで事故が多いなどの指摘もあった。石連よりは、最近ではカセット内臓式の灯油缶もできているが、それを利用するには、新しいストーブが必要となるし、まだメーカー間の互換性もないとのことであった。

後半には、シェールオイルの採掘の環境負荷に関して質問があった。石連より、シェールでは頁岩を砕きやすくする薬品を含む高圧の水を入れて掘出しており、その水の地下水への影響が危惧されているが、地球規模で石油の使用量は増えていることから、採掘技術の研究やCO₂対策、CCS技術も進んでいくと思われるとの説明があった。

